

令和2年度 月島第二小学校外部評価報告書

評価委員：則武一光、竹内幸美、小西幸子、竹田都子、光成洋二、角山良敬、村上公一、藤枝精治、小川美佐子、三嶋竜

作成者：森本 眞美（副校長）

評価時期 令和2年2月

1 重点目標の評価

**重点目標1について**

「確かな学力を身に付けさせる教育活動」

- ・児童にとって、分かりやすい授業を目指し、授業改善を行いながら、教育活動を展開することができた。具体的な取組としては、算数少人数指導や、「放課後さんすう塾」で、苦手とする課題に対し、基礎的・基本的な学習内容を繰り返し指導することを行っていた。その結果、基礎学力の向上につながっている。
- ・今年度の校内研究である「授業におけるユニバーサルデザイン化」に対する取組においては、どの子にも分かる授業を目指し、授業改善を校内全体で取り組むことができた。児童の「分かる・楽しい授業」を目指すことが、児童の基礎・基本の定着を図ることになっている。
- ・算数科を中心に基礎的・基本的な学習内容の定着を目指すとともに、「授業におけるユニバーサルデザイン化」を今後も推進し、全ての児童にとって分かりやすい授業を目指し、授業改善に取り組んでいってほしい。

**重点目標2について**

「豊かな心を育む教育活動」

- ・「へんじ・あいさつ・あとしまつ」をキーワードにした礼儀正しい子どもの育成に、取り組んでいる。進んで挨拶をする児童の姿が多く見られていてよい。「心の豊かな子ども」の育成に向けた取組にもつながる内容である。また保護者からのアンケートでの評価でも、返事や挨拶は、肯定的評価が80%以上あり、礼儀正しさは身に付いてきている。今後も「へんじ・あいさつ・あとしまつ」をキーワードにしながら「心の豊かな子ども」の育成に取り組んでいってほしい。
- ・挨拶など、「礼儀正しい子ども」を育てることにおける取組が、周囲に協力を得ながらできている。今後も、学校内に限らず子ども自身が、挨拶やコミュニケーションを図ることの指導を続けていってほしい。

**重点目標3について**

「健やかな心と体を育む教育活動」

- ・「体力向上」については、マイスクールスポーツである「なわとび」の取組がとてもよい実践である。またコロナ禍の中での実践についても、安全に配慮した工夫ある取組であった。今後も運動に親しみ、体力の向上が図れるよう年間の指導計画に位置付け、「なわとび」の実践を工夫し行うようにしてほしい。

- ・オリンピック・パラリンピック教育の中でも運動に親しみ体力の向上を図ることを主眼におきながら取組を工夫して行ってほしい。

## 2 今後の改善に向けた意見

- ・地域との交流を図りながら授業を展開したり、放課後の地域の行事に参加をしたりすることを積極的に行ってほしい。またこのことで、児童自身が地域の一員であることの自覚をもち、地域を愛する気持ちをもってほしい。
- ・挨拶や返事が今後も進んでできるように、学校、保護者、地域が一体となって指導を行うとよい。
- ・アンケートの結果から、コミュニケーションを図ること等の学校での取組がよく分かり理解できた。今後は、児童が自分自身の思いや悩みを周囲に相談できるような体制をさらに工夫し、充実させて行ってほしい。